

戦 争

証 言

2023

戦時下に生まれ育った私

死を実感した幼少時代

幼い心に刻んだ戦争は

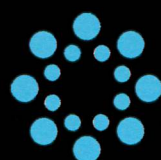
決して消えることのない

あの目の記憶

戦争を経験された方の貴重な体験を聞く機会が少なくなりつつあります。

滋賀県平和祈念館では、貴重な戦争体験者のお話を映像として残すとともに、

戦争の記憶を語り継ぎ、平和の尊さを学ぶための資料として証言映像を作成しました。



滋賀県平和祈念館



# 戦争体験者 証言映像 戦争証言2023 【映像内容】

## 映像 1 満州から引き揚げた母娘の長い戦争 【証言者・娘】 杉山 康さん（終戦時3歳） 【17分】 【母】 広田 きみさん（終戦時29歳）



昭和16年、父親の仕事で満州国に渡った広田さん家族。そして満州で生まれた康さん。戦時中はまだ穏やかな生活を送っていましたが、日本の戦況が悪くなると、父親は37歳の年で出征。終戦の頃にはソ連（ロシア）の侵攻をうけて、広田さん家族は満州を離れることになりました。そこから数々の苦難を乗り越え、日本に帰り着くまでに1年以上の月日がかかります。その後、出征した父親の行方が分かるまで70年近くの時間がかかりました。

## 映像 2 滋賀海軍航空隊での予科練生活 【証言者】 倉内 昭夫さん（終戦時16歳） 【13分】



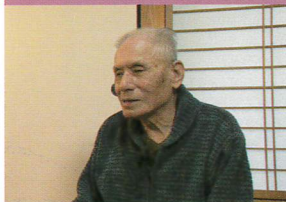
昭和19年、血気盛んな15歳だった倉内さんは飛行兵にあこがれて海軍飛行予科練習生を志願。配属された先は、大津市唐崎にあった「滋賀海軍航空隊」でした。パイロットを養成する隊で、10代の若者がたくさん集められました。しかし、戦闘に使うような飛行機はなく、飛行機の訓練はできるような状況ではありませんでした。やがて、飛行場づくりや、農作業に駆り出されることとなります。土方仕事ばかりやっていたことから、予科練ではなく「ド力練」だと言われました。

## 映像 3 軍国主義と共に歩んだ少年 【証言者】 中島 伸男さん（終戦時10歳） 【16分】



昭和16年、国民学校令が施行され、学校の教育方針が大きく変わります。子どもであっても、お国のために奉仕しなければなりません。ちょうどその年に国民学校1年生になった中島さんは軍国主義を突き進む日本や、国から知らされる連戦連勝の情報に湧き上がる人たちを見てきました。しかし、それも長くは続かず、中島さんは日に日に悪くなる暮らしや、勝っているはずなのに負けている真実を薄々感じはじめます。戦時下の子どもの暮らしを切々と語ります。

## 映像 4 目の見えない少年が経験した戦争 【証言者】 駒井 良平さん（終戦時13歳） 【15分】



甲賀市水口で生まれ育った駒井さんは生まれた時から目が見えませんでした。7歳の時、彦根にある盲学校へ入学、寮生活がはじまります。盲学校では、目が見えなくても何か手伝えることはないかと、治療奉仕の訓練などを行っていました。やがて、彦根の空をアメリカ軍の飛行機が飛ぶようになります。駒井さんは、B29の特徴のある音を今でも覚えています。空襲への備えとして、竹竿と一緒につかまって避難する訓練などを行っていました。

### 【戦争証言】シリーズのご紹介



【戦争証言2015】 【戦争証言2016】 【戦争証言2017】 【戦争証言2018】 【戦争証言2019】 【戦争証言2020】 【戦争証言2022】

### 【映像の貸出し・お問い合わせ先】

映像の貸出しについてのお問い合わせは滋賀県平和祈念館までお願いします。また貸出しの本数に限りがあります。ご了承ください。



滋賀県平和祈念館

〒527-0157 滋賀県東近江市下中野町431番地  
開館時間：9時30分～17時  
休館日：月曜日・火曜日（祝日にあたる場合は開館）  
年末年始  
その他、業務の都合により休館する場合があります  
電話番号：0749-46-0300  
FAX番号：0749-46-0350  
E-mail：heiwa@pref.shiga.lg.jp